

鹿児島市吉野町の知的障害者支援施設「しょうぶ学園」に通う石野敬祐さん(21)＝同市若葉町＝が紙とセロハンテープでつくった人形が、来年3月にパリで開幕する「障害者アート展覧会」に展示されることになった。作品づくりを十数年間見守り続けてきた両親は「世界の人に見てもらえるなんて信じられない」と喜んでいる。

# 紙の人形パリデビュー



パリで開かれる展覧会への出展が決まった石野敬祐さん(中央)と作品を持つ両親＝鹿児島市若葉町

## 鹿児島市の石野さん

石野さんは自閉症で週2回、同学園に通っている。

パリでの展示は、母孝代さん(50)が知り合いに薦められ、今年3月にあった全国障害者芸術・文化祭滋賀大会に応募したのがきっかけ。5月中旬、展覧会が開かれるパリ市立アル・サン・ピエール美術館のマーティン・ルザリア館長が日本を訪れ、同大会出品者を含む約600人の中から67人の作品を選んだ。

石野さんが作品をつくり始めたのは小学校低学年。空き箱に鼻や耳を書いた紙をはりつけて人形をつくっていた。次第にテレビや漫画のキャラクター、車、自分でつくり出した人形などに変わっていった。

使う材料は紙とセロハンテープ

## 「障害者アート展」展示へ

プのみ。紙に絵を描きフェルトペンで丁寧に色を塗る。幅約5センチの帯をつくり立体的に仕立てていく。一つの人形に約2〜3時間かかる。

最近、華やかな「女の子」シリーズが一番多く、1日に2、3個つくることも。季節や気分によって、髪形や服装が替わる。自宅には、色鮮やかな人形200体近くが並び、同市内の福祉施設に寄付している。

武岡台養護学校高等部時代は、クラス全員分の名前を立体的につくり、プレゼントしたという。孝代さんは「人に喜ばれるとやる気が出るみたい」と話す。

展覧会は2010年3月22日から半年間。石野さんは、家族と一緒に現地を訪れる予定だ。